

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771000557		
法人名	医療法人 博悠会		
事業所名	グループホームさくらんぼ中島(1F)		
所在地	大阪府大阪市西淀川区中島1-14-21		
自己評価作成日	平成22年5月20日	評価結果市町村受理日	平成22年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771000557&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

名取病院・なとりクリニックと24時間医療連携をとっており、入居者の健康管理を行なっている。ご希望があれば、最期の看取りまでさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、盆踊りや花見など地域行事に参加したり、ボランティアが紙芝居やピアノを弾きにきてくださるなど積極的に地域と交流されています。また、町会長を始め地域の方はホームに協力的で、火災などがあればすぐに駆けつけてくれるように協力体制が取れており、地域の中で共に生活が送れるように支援されています。開設時から勤めているの職員が多く、馴染みの関係が築かれ利用者の安心した生活に繋がっています。職員間は何でも言い合える環境があり、やりがいを持っていきいきとケアに当たり、笑顔で対応しています。また、重度化が進んでくる中で、今までの経験を活かし医師や看護師との連携を密にとり、家族の希望を尊重し、職員間の思いを1つにして看取りまで支援されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で「利用者様は家族です」との理念を唱和し、実践に向けて共有している。	法人理念とホーム独自の年度ごとの介護目標があり、玄関に掲示しています。毎年管理者と各リーダーが介護目標について評価し次年度に向けて話し合い作成しています。朝礼時に唱和し、ケアに行き詰った時には家族の立場になり振り返る機会を持ちながら実践できるように取り組んでいます。	介護目標の評価や次年度に向けた話し合いを管理者や各リーダーだけでなく職員も交えて色々な意見を交わしながら其々の意見や思いを取り入れ作成されてはいいががでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事に参加したり、夏祭りにはお手伝いをしていただき、交流を図っている。	自治会に加入し、花見や盆踊りなど地域の行事に積極的に参加しています。町会長の協力を得て幼稚園や保育園との交流が出来るように計画を立てています。また、紙芝居などのボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、地域に出掛け、介護教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上のため、いろいろな意見を伺うようにしている。	家族や町会長、ネットワーク委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2カ月に1回開催しています。ホームから活動内容や健康状態、今後の予定、避難訓練についてなどを報告するとともに、サービスの評価や質問、要望等の意見を頂いています。また、地域との繋がりを大切に協力を得るためにも大切な場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区在宅福祉センターに於いて、3ヶ月に1度、西淀川区グループホーム連絡会に参加している。	区役所に行き、担当者に直接報告や相談しています。区が主催するグループホーム連絡会が3カ月に1度あり、情報交換をしたりアドバイスを頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に行動できるように制限せず、支援している。	法人の身体拘束廃止委員会があり勉強会が開催されます。日々のミニカンファレンスで具体的な事例について話し合っています。また、ユニットごとの入口はロックしていますが、自由に出入りされている利用者もいます。外出したい様子があれば何が原因なのか考え散歩などをしながら利用者に応じた対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の行動を制限する行為は行わず、見守り、声かけを徹底している。		

グループホーム さくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や助言を必要とされている方には提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章により、利用者・家族には説明を行ない、理解していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情はすぐに対応し、職員間でもミーティングを行ない、意見を管理者へ報告している。	廊下に意見箱を記入用紙と一緒に置いています。来訪時や運営推進会議、家族会に参加があり、言いやすい雰囲気で見聞や要望を聞いています。出された意見などはミーティングで話し合い改善策を伝えています。今後ホーム便りの発行を予定し家族の意見などを載せて発信していこうと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体ミーティング、フロアミーティングを行ない、意見を管理者へ報告している。	職員同士のコミュニケーションや連携が取れており、管理者は夜勤時などに直接意見を聞いています。意見や提案があれば何でも言いやすい雰囲気があります。また、ミーティングや日常的に出された職員の意見を吸い上げリーダー会議で話し合い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の介護に対する考え方や姿勢を把握し、働きやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、外部研修などの情報を知らせ、選んで参加しているようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度の同区内のグループホームの連絡会、法人内の勉強会への参加、同法人内のグループホームとの会議等での意見交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活上の不安や希望などを伺い、入居後のケアに活かすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの様子や状況を伺い、今後の取り組みについて話し合い、安心していただけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、必要なサービスを検討し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊かな利用者から、学ぶことが多く、教えていただくことが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話をする時間をとり、ホームでの生活のあり方を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切に支援している。	友人や知人、在宅生活でお世話になった方などがホームに訪ねに来てくれている方もおられます。毎日のように友人の来訪があり将棋を楽しまれている利用者もいます。また、利用者から希望で誕生日会の写真を知人に配ることを支援を行いました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、コミュニケーション作りのきっかけとなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら、お見舞いに伺い、手伝えることは続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の立場に立って考え、マイペースに過ごしていただけるように努めている。	入居前、家庭訪問をして利用者や家族から多くの情報を得ています。入居後は、家族の来訪時や利用者とのコミュニケーションを取りながら希望や意向が把握できるようにしています。日々の関わりの中で気づいたことを記録に残し、利用者の言動から思いを汲み取れるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に詳しく生活歴を伺い、サービスに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の担当を決め、状態の観察を行ない、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの情報や意向などを伺い、変更や見直しをチームで意見交換し、反映するよう努めている。	生活リズムパターンシートを利用して1週間ごとに評価しています。毎月モニタリングとカンファレンスを行い6カ月ごとに見直しや変化があればその都度、見直しをしています。ケアプランに沿ってのケアが実行できるように皆がよくわかり細かく記録されています。また、ケアプランの同意をもらう時に家族の意見を聞いています。	ケアプランの更新の前に家族の意向を聞いたり、カンファレンスの記録を残すことで、ケアプランの立案や更新の経過がわかるようにされてはいいでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を日勤帯・夜勤帯で個別に記入し、一週間毎に評価し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスだけでなく、地域へ出掛けたり、本人や家族の要望に応じている。		

グループホーム さくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方により、陶芸教室やカラオケ教室の開催などのご協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係を築き、支援している。	今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。週3回の協力医の往診や訪問看護との連携体制が整っています。利用者の状況に応じて毎日の往診や24時間訪問看護師に相談できるよう対応してもらっています。また、訪問歯科や歯科衛生士は定期的に来訪してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診看護師が毎日訪問するため、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人・家族の意向を伺い、病院関係者とも情報交換しながら、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を伺い、状態に合わせた段階で、その都度、家族・主治医と話し合い、方針を共有している。	入居時にホームの方針を説明しています。ホームでの看取りを希望される家族が多く、その時の状況になれば再度、確認し医師などを交えて話し合いをしています。今までに看取りを経験した職員も多くおり、ミーティングで話し合い医師や看護師に意見や対処方法などアドバイスを聞き、経験も活かしながら希望に応じた支援が出来るように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会で定期的に緊急時の対応の訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行ない、町会長を通じ、協力をお願いしている。	消防署立ち会いのもと年に2回、昼夜想定で避難訓練をしています。町会長が協力的で運営推進会議を通じて地域の協力を得られるように働きかけています。次回、地域の方も一緒に避難訓練を行う予定をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない言葉使いを心がけ、プライバシーを損ねないように努めている。	人生の先輩としての対応や言葉遣いが出来るように心がけ、言葉での行動制止をすることのないようにしています。不適切な対応が見られた時には、その都度注意しています。また、法人の接遇マナー委員会に参加し伝達研修をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話で希望や不安を聞き出し、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に出掛け、ご自分で選び購入されたり、訪問理容を利用されたりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理実習に参加していただき、盛り付け、後片付けなど手伝っていただいている。	隣接する配食サービスから食事が届けられ、利用者の状況に応じた食事を提供しています。週に1回は、利用者の希望を聞きながら買い物から一緒に行き、食事作りや食器拭きなどを楽しんでいます。また、各フロアごとの利用者状況もありますが、できるだけ職員も同じテーブルに着き同じものを頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、少ない方は補助食などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に対応している。		

グループホーム さくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行なっている。出来る限り自立できるよう援助し、オムツの使用量を減らすよう工夫している。	排泄表を利用しながら、利用者ごとの排泄パターンを確認し声かけや誘導をしています。おむつを利用していても布パンツや紙パンツなどに切り替え、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。また、業者の協力も得ながらスキントラブルにならないように利用者にあったものを使ったり、経費節減にもなるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトなど個々に良いものを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に声掛けし、入浴されるかどうか決めていただき、拒否の場合は別の機会に再度伺う。	日曜日以外は毎日、午前・午後入浴できるように準備し、2回は入れるように支援しています。浴室は広く、入浴効果のあるシャワー浴の機械の設置もあります。入浴剤や好みのシャンプー、整髪料を用意しています。また、入浴拒否傾向の利用者には時間を変更したりコミュニケーションを取りながら入れるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の状態に合わせ、お昼寝を居室やリビングでされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認するようにし、症状の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	相撲や時代劇、歌番組などの時間になると声かけし、CD音楽をかけ、歌を皆で一緒に歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前で日光浴をしたり、公園やお寺などに散歩に出掛けている。	天気のいい日には散歩に出かけています。玄関前で日光浴やおやつを食べたり、コンビニにおやつを買いに出かけるなど、出来るだけ皆が偏ることなく出かけられるように支援しています。また、月に1回の夕食や年に1回花鳥園や万博公園、須磨海族館など遠足に出かけています。	

グループホーム さくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望に添えるように管理し、買い物と一緒に掛ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、職員が個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを配置し、職員手作りの壁飾りや利用者の写真を飾って、居心地良い雰囲気にも努めている。	明るく広いリビングでは皆が自然と集まる空間になっています。冬場は足元が寒いのでテーブルが炬燵に変更できるようにしたり、温度や湿度には気を配っています。廊下には外出時の楽しい様子の写真や季節の花を折り紙で作った作品を飾り、台所にはテーブルを置き利用者と一緒に準備できるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫し、本人が好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年、馴染んだ物を置いていただき、生活歴に合わせたお部屋作りをしていただいている。	じゅうたんを敷き炬燵を置いたり、畳コーナーを作られている方もいます。ソファやテレビ、大切な仏壇などを持ち込んでもらい、生花や好きな歌手のポスターを飾っています。利用者ごとの居心地のいい空間作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすいよう表示したり、工夫を行なっている。		